

## はじめに

今日、日本社会の様々な領域において構造的な変化が進行しています。特に産業や経済の分野においてはその変容の度合いが著しく大きく、雇用形態の多様化・流動化にも直結しています。また、学校から職業への移行プロセスに問題を抱える若者が増え、社会問題ともなっている状況です。

このような中で、一人一人が「生きる力」を身に付け、明確な目的意識を持って日々の学校生活に取り組みながら、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を高め、しっかりとした勤労観・職業観を形成し、激しい社会の変化の中で将来直面するであろう様々な課題に対応しつつ社会人・職業人として自立していくことができるようにするキャリア教育の推進が強く求められています。

「キャリア教育」という用語が文部科学行政関連の審議会報告等で初めて登場したのは、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について（平成 11 年 12 月）」においてでした。本答申では「学校教育と職業生活との接続」の改善を図るために、小学校段階から発達の段階に応じてキャリア教育を実施する必要があると提言されています。

その後、様々なキャリア教育推進施策が展開されましたが、平成 18 年におよそ 60 年ぶりに改正された教育基本法においては、「各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培う」ことが、義務教育の目的の一部に位置付けられました。翌年改正された学校教育法では、新たに設けられた義務教育の目標の一つとして「職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと」が定められ、小学校からの体系的なキャリア教育実践に対する法的根拠が整えられたところです。

また、平成 20 年 1 月の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」においても、新しい学習指導要領でのキャリア教育の充実が求められました。更に、平成 20 年 7 月 1 日には「教育振興基本計画」が閣議決定され、今後 5 年間（平成 20 ～ 24 年度）に取り組むべき施策の一つとして「関係府省の連携により、キャリア教育を推進する」ことが挙げられ、平成 21 年 3 月にはそれらの内容に基づいて高等学校学習指導要領が改訂されました。

平成 20 年 12 月には、文部科学大臣が中央教育審議会に対して「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」諮問し、平成 23 年 1 月に答申がとりまとめられました。本答申では、「社会人・職業人としての自立が迫られる時期である高等学校におけるキャリア教育の充実は、喫緊の課題である」と述べられています。本書が、各高等学校はもとより、関心をお持ちの多くの方々に広く活用され、キャリア教育の指導内容・指導方法の充実に役立てられることを念願しております。

末尾となりましたが、本書の作成に当たり御尽力を賜りました作成協力者及び関係の皆様へ深くお礼申し上げます。

平成 23 年 11 月

文部科学省初等中等教育局長  
山中伸一

# CONTENTS

## はじめに

### 第1章

## キャリア教育とは何か

<b>第1節 キャリア教育の必要性と意義</b>	<b>9</b>
1 キャリア教育が提唱された背景	9
(1) 子どもたちをめぐる課題	
(2) キャリア教育の提唱と経緯	
2 キャリア教育の定義	14
(1) キャリアとは	
(2) キャリア発達とは	
コラム 「キャリア発達にかかわる諸能力(例)」	
(4 領域 8 能力) の開発過程について	20
(3) キャリア教育で育成すべき力	
- 「基礎的・汎用的能力」とは -	
(4) 今後のキャリア教育における	
勤労観・職業観の位置付け	
3 キャリア教育の目標	25
(1) 入学から卒業までを見通した目標設定	
(2) キャリア発達を踏まえた目標設定	
(3) 学校・学科などの特質や、生徒の実態に	
即した目標設定	
4 キャリア教育に期待されること	31
(1) 「生きる力」の理念を実現する視点から	
(2) いわゆる「PISA 型学力」の視点から	
(3) 言語活動の充実という視点から	
5 キャリア教育の意義	32
6 近年の若年者雇用の動向とキャリア教育	32
(1) 近年の若年者雇用の動向	
(2) 雇用の観点から見たキャリア教育の意義	
コラム 「キャリア発達」についてもう少し詳しく	35
<b>第2節 キャリア教育と職業教育</b>	<b>36</b>
1 専門学科における職業教育の重要性	36
2 普通科における職業科目の履修機会の確保	37
3 職業教育を通じたキャリア教育の重要性	38
<b>第3節 キャリア教育と進路指導</b>	<b>39</b>
1 進路指導の定義と諸活動	39
(1) 進路指導の定義	
(2) 進路指導の諸活動	
2 教育課程における進路指導の位置付け	41
3 教育振興基本計画の策定(平成20年)と	
新しい学習指導要領	42
4 キャリア教育と進路指導との関係	43
<b>第4節 小学校や中学校におけるキャリア教育</b>	<b>45</b>
1 小学校におけるキャリア教育の特質	46
(1) 小学校・低学年における発達課題と	
キャリア教育	
(2) 小学校・中学年における発達課題とキャリア教育	
(3) 小学校・高学年における発達課題とキャリア教育	
2 中学校におけるキャリア教育の特質	52
(1) 中学校におけるキャリア教育の全体像	
(2) 中学校におけるキャリア教育のねらいと	
関連する主な内容	
(3) 中学校における確かな成長を促す	
職場体験活動の推進	

### 第2章

## 高等学校における キャリア教育の推進のために

<b>第1節 設置形態、学科の特質に応じた キャリア教育の推進</b>	<b>61</b>
1 高等学校の設置形態と学科の種類	61
2 学科ごとに見られるキャリア教育の課題	62
(1) 普通科	
(2) 専門学科	
(3) 総合学科	
3 学科ごとのキャリア教育の推進	63
(1) 普通科	
(2) 専門学科	
(3) 総合学科	
4 学科の特質に応じて育成すべき 「基礎的・汎用的能力」	64
<b>第2節 校内組織の整備の推進</b>	<b>65</b>
1 キャリア教育の推進と校長の役割	65
2 校内推進体制の整備	65
(1) 実践を支える運営体制	
(2) 生徒に対する指導体制	
(3) 外部との連携体制	
3 教職員研修	67
(1) 教職員研修のねらいや内容	
(2) 教職員研修の実施形態	
(3) 記録の保存や活用	
<b>第3節 全体計画の作成</b>	<b>69</b>
1 全体計画の基本的な考え方	69
2 各学校において定めるキャリア教育の目標	69
(1) 生活環境を考慮した目標設定の工夫	
(2) 生徒の実態や学科・設置形態などの特色を	
考慮した目標設定の工夫	
(3) 生徒指導上の問題を抱えている	
学校における目標設定の工夫	
3 育成したい能力や態度の設定	73
4 教育課程における位置付け	76
(1) 道德教育との関連	
(2) 各教科等との関連	
(3) 進路指導との関連	
<b>第4節 年間指導計画の作成</b>	<b>80</b>
1 年間指導計画の基本的な考え方	80
(1) 年間指導計画作成の手順	
(2) 年間指導計画作成の留意点	
(3) 年間指導計画作成の効果	
2 各教科と年間指導計画	81
3 総合的な学習の時間と年間指導計画	88
(1) 高等学校学習指導要領におけるキャリア教育	
に特に関連が深い主な目標・内容の例	
(2) 総合的な学習の時間の年間指導計画の具体例	
4 特別活動と年間指導計画	91
(1) 高等学校学習指導要領におけるキャリア教育	
に特に関連が深い主な目標・内容の例	
(2) 特別活動の年間指導計画の具体例<普通科・	
第1学年・ホームルーム活動>	
5 各教科等を横断的に見た年間指導計画	93

# 第3章

## 高等学校における キャリア教育の実践

<b>第1節 高等学校におけるキャリア発達</b>	<b>129</b>
1 高校生期におけるキャリア発達の捉え方	129
2 各学校におけるキャリア発達課題の具体的な捉え方	130
(1) 社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力や態度を育成する	
(2) キャリアを積み上げていく上で必要な知識等を、教科・科目等を通じて理解させる	
(3) 体験的な学習の機会を設ける	
(4) 生徒が自らの価値観を形成し、とりわけ勤労観・職業観を確立できるようにする	
コラム 生徒一人一人の多面的な成長を促すために	131
<b>第2節 高校生期のキャリア発達課題</b>	<b>132</b>
1 入学から在学期間半ば頃までの発達課題と取組の基本的な考え方	132
2 在学期間半ば頃から卒業を間近にする頃までの発達課題と取組の基本的な考え方	134
<b>第3節 入学から卒業までを見通した系統的なキャリア教育の取組</b>	<b>136</b>
1 個に応じたキャリアカウンセリングの充実	138
(1) キャリアガイダンスとキャリアカウンセリング	
(2) キャリアカウンセリングの進め方	
(3) 卒業直後の進路決定をめぐる個別支援の考え方と進め方	
2 体験的な学びを生かした取組	140
3 各教科における学びを断片化させない工夫	144
4 外部人材と共につくる系統的なプログラム	145
コラム 高等学校における中途退学者に対するキャリア教育（地域若者サポートステーション等との連携等について）	152
<b>第4節 各教科等における取組</b>	<b>153</b>
1 日々の教育活動とキャリア教育	153
2 本節の構成と活用方法	153
国語	154
地理歴史	158
公民	164
数学	168
理科	172
保健体育	176
芸術	180
外国語	186
家庭	190
情報	194
農業	198
工業	202
商業	206
水産	210
看護	214
福祉	218
産業社会と人間	222
総合的な学習の時間	226
特別活動	230

6 進路指導と年間指導計画	93
(1) 卒業直後の進学や就職に関する指導とキャリア教育の関係	
(2) 卒業直後の進学や就職に関する指導の計画を組み込んだキャリア教育の一例	
<b>第5節 連携の推進</b>	<b>97</b>
1 連携の基本的な考え方	97
2 家庭・保護者との連携	97
(1) 家庭・保護者に期待される役割	
(2) 連携の在り方	
3 地域・産業界等との連携	99
(1) 地域及び公共的な組織・機関等に期待される役割	
(2) 事業所・産業界等に期待される役割	
(3) 連携の方策と留意点	
(4) 連携の効果	
コラム 職業人・社会人講話を単発イベントにしないために	103
4 学校間（異校種間）連携	104
(1) 学校間連携の考え方	
(2) 学校間連携の例	
(3) 学校間連携の効果	
5 家庭・地域・事業所・産業界等と学校を結び付ける方策	107
(1) キャリア教育推進連絡協議会（仮称）の組織化と目標	
(2) 外部人材と協働するための連絡・調整	
<b>第6節 効果的なインターンシップの在り方（普通科に焦点を当てて）</b>	<b>109</b>
1 キャリア教育におけるインターンシップの位置付け	109
2 キャリア教育におけるインターンシップの効果	110
3 インターンシップの目的	111
(1) 高等学校段階における目的	
(2) 異校種における目的の違い	
(3) 学校において目的を定めるに当たっての留意点	
4 インターンシップ充実のための方策－障壁を克服するために－	112
(1) 目的の明確化と意識改革	
(2) 校内体制の構築	
(3) 学校外部の教育資源の活用推進	
(4) 学校の教育活動における位置付けの明確化	
(5) 効果的なインターンシップの実施	
5 インターンシップ充実のための留意事項	116
(1) 実施時期の設定	
(2) 実施期間の設定	
(3) 健康管理・安全管理	
(4) 実施中の指導と配慮	
コラム インターンシップと個別支援－経験をキャリア形成に生かすために－	118
<b>第7節 キャリア教育の評価</b>	<b>119</b>
1 評価の基本的な考え方	119
2 生徒の成長や変容に関する評価	120
(1) 評価の視点と方法	
(2) 定性的な評価と定量的な評価	
3 教育活動の評価と改善	121
(1) 評価の視点と方法	
(2) 改善の視点と方法	
4 各学校の指導計画の評価と改善	123
(1) 評価の視点と方法	
(2) 改善の視点と方法	